

NEWS 連合千葉

台風 15・19 号ならびに豪雨災害 におけるボランティア活動の記録 《第 4 号》

～ボランティア ニュース～

日本労働組合総連合会
千葉県連合会（連合千葉）
〒260-0013
千葉市中央区中央 4-13-10
千葉県教育会館 新館 6 階
発行人：永富博之
編集人：小山良成
記事提供：川田和広
発行日：2019 年 10 月 31 日

連合千葉第 17 回定期大会開催日の 10 月 25 日（金）、台風 15 号・19 号の爪痕が残るなか、今度は台風 21 号の影響による記録的な大雨が千葉県を襲いました。千葉駅から下りの電車は全て運休、加えて土砂や冠水により主要幹線道路での通行止めも起こり、多数の帰宅困難者が生じました。帰宅できず連合千葉の事務所に泊まった役員もいます。自然の猛威の中では、いかに無力なことか。連合千葉は、一日でも早い復興に向け千葉県災害ボランティアセンター連絡会と連携し、被災地支援を続けます。

10 月 26 日（土）＜鴨川市＞

千葉県の右下に位置する鴨川市は、千葉県内でも都心から距離があるのに加え、高速道路のインターを降りてから一般道を 1 時間以上走る必要があります。そのためボランティアが集まりにくい地域と聞きました。

そこで、連合千葉は鴨川市ボランティアセンターと連絡を取り、第 17 回定期大会の翌日である 10 月 26 日（土）に、この間で最大となる 15 名で鴨川市へボランティア活動に入りました。



朝、ボランティアセンターでの受け入れの様子



今回支援に入った地域は、東京から一番近い「棚田の里」と言われ「日本の棚田百選」に選ばれた『鴨川大山千枚田』として有名な地区でした。のどかな田園風景が続く一方で、山奥に点在する民家はひとけも寂しく、ボランティアの手が入り切れていない感もありました。



10/26(土) 活動の記録



電力総連班の作業の様子

実際の作業は、山崎副会長を中心とした電力総連チーム（5名）と、J P 労組・千教組・U A ゼンセン・連合千葉専従者（10名）の2班に分かれて取り組みました。

依頼された内容は、茅葺屋根を覆う、トタンが風で剥がされ、周囲に散乱していることから、散乱しているトタンの回収と分別、指定場所への搬送でした。

本来、茅葺屋根の上にトタンを張らなくても雨漏りはしません。しかし、茅葺のままだと最低でも2～3年に1度は張り替える必要があります。金銭的な負担もさることながら、地域の手人が減り張り替える手間を賄うことが難しくなっており、そのため茅葺屋根の上にトタンを張っているそうです。

依頼主の話によると「もともと屋根として張っていたトタンではなく、茅葺の傷みを和らげるためのトタンだったため、強風の被害も大きく受けてしまった」とのことでした。

最後に一緒に参加した千教組安房支部の岡本書記長より謝意があり、この日の支援作業も無事故で終了することが出来ました。



【電力総連の皆さん】

向かって左から清水康平さん、鈴木秀樹さん、山崎英世さん（連合千葉副会長）、中島宏之さん、小澤恵利菜さん



みんなで力を合わせて、頑張りました！

【J P 労組・千教組・U A ゼンセンの皆さんと連合千葉専従者】

＜上段＞ 向かって左から小山副事務局長、永富事務局長、小関慶一さん（U A ゼンセン）、福田健太郎さん（千教組）、南村定男さん（U A ゼンセン）、川田副事務局長
＜下段＞ 向かって左から岡本泰彦さん（千教組）、長谷川幹記さん（J P 労組）、伊藤真太郎さん（千教組）、佐藤喜保さん（千教組）